

「パリサイ主義の糾弾(3)」

マコ 12 : 38~40、マタ 23 : 1~39、ルカ 20 : 45~47

「やもめの献金」

マコ 12 : 41~44、ルカ 21 : 1~4

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① イエスの最後の1週間について学んでいる。
- ② きょうの出来事も、火曜日に起こったものである。
- ③ イエスの公生涯は、きょうの箇所ですべて終了する。
- ④ パリサイ人たちに語った7つの「わざわい」の最後は、イエスの涙である。
*エルサレム崩壊の預言
- ⑤ 公生涯の締めくくりは、やもめの献金である。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 137 イエスは、最後の公の教えで、律法学者とパリサイ人たちを糾弾する。

マコ 12 : 38~40、マタ 23 : 1~39、ルカ 20 : 45~47

§ 138 やもめの献金

マコ 12 : 41~44、ルカ 21 : 1~4

2. アウトライン

(1) イエスの涙 (マタ 23 : 37~39)

- ① エルサレム崩壊の預言
- ② 再臨の預言

(2) やもめの献金 (マコ 12 : 41~44)

- ① イエスの観察
- ② イエスの教え

3. 結論 :

- (1) 再臨と携挙の違い
- (2) 反ユダヤ主義の理由
- (3) やもめの献金からの教訓

神に喜ばれる信仰とは何かを学ぶ。

I. イエスの涙(37~39節)

1. エルサレム崩壊の預言

Mat 23:37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。

Mat 23:38 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。

(1) 「ああ、エルサレム、エルサレム」

①7つの「わざわいだ」の結末に来るのは、イエスの涙である。

* 「ああ、エルサレム、エルサレム」は、感情がこもった言葉である。

②エルサレムとは、エルサレムの住民でもあり、ユダヤ人全体でもある。

③イエスは、7つの「わざわいだ」の中で「目の見えぬ」という言葉を5回も使っている。

④彼らは、盲目の指導者に導かれ、誤った道に向かう悲劇の民である。

⑤彼らは、預言者たちを殺し、神からの使者を石打ちにしてきた民である。

(2) イエスは、その民を愛された。

①めんどりと雛の比喩が使われている。

②雛は、危険を察知すると、めんどりの翼の下に逃げて来る。

③イエスは、ユダヤ人たちに愛を示されたが、彼らは雛のようではなかった。

(3) 訳文の比較

「それなのに、あなたがたはそれを好まなかった」(新改訳)

「だが、お前たちは応じようとしなかった」(新共同訳)

「それなのに、おまえたちは応じようとしなかった」(口語訳)

「されど汝らは好まざりき」(文語訳)

「それなのに、あなたがたはそれを拒んでしまったのです」(リビングバイブル)

「and you would not!」(KJV)

「but you were unwilling!」(NIV)

(4) 訳文から見えて来ること

①ユダヤ人の盲目だけが、メシア拒否の原因ではない。

②「信じたくないから信じないんだ」という否定的な意志が感じられる。

③滅びの責任は、彼らにある。

(5) 「見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される」

- ①「家」とは、第一義的には神殿のことである。
- ②広い意味では、エルサレムの町、また、ユダヤ人国家も含むと考えられる。
- ③これは、メシアの死と再臨の間の期間に起こることの預言である。
- ④これは、紀元70年に成就した。

2. 再臨の預言

Mat 23:39 **あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」**

(1) イエスは、ユダヤ人たちを見捨てたのではない。

- ①イエスは、再び戻って来られる。
- ②しかし、再臨の時までは、ユダヤ人たちがイエスを見ることはない。
- ③復活のイエスに出会うのは、信者だけである。

(2) 再臨の条件

- ①「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」という祈りである。
- ②これは、詩118:26にあるメシアを迎える時の公式な歓迎の言葉である。
- ③ユダヤ人たちが、この祈りをするのが再臨の条件である。

*ユダヤ人たちが信仰を持ったことが暗示されている。

- ④盲目の指導者に導かれてメシアを拒否した民が、正しい指導者に導かれて信仰を告白するようになる。

II. やもめの献金(41~44節)

1. イエスの観察

Mar 12:41 **それから、イエスは献金箱に向かってすわり、人々が献金箱へ金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちが大金を投げ入れていた。**

Mar 12:42 **そこへひとりの貧しいやもめが来て、レプタ銅貨を二つ投げ入れた。それは一コドラントに当たる。**

(1) 予備知識

- ①この出来事は、公生涯最後の出来事である。
- ②この箇所を最後に、イエスは神殿から離れる。
- ③パリサイ人やサドカイ人たちは、イエスの怒りを恐れイエスから離れている。
- ④弟子たちでさえも、イエスから距離を置いた所にいる。
- ⑤イエスは、異邦人の庭で教えていたが、ここで婦人の庭に入る。
- ⑥婦人の庭の一方の壁に、献金箱が置かれていた。

*13個あった。それぞれ、目的が異なる献金箱であった。

*入り口が、ラッパの形をしていた。

*画像①

⑦婦人の庭に置かれた理由は、男女の区別なく献金ができるようにするため。

(2) 観察段階

①イエスは、献金箱が置かれている壁を正面に見る位置に座られた。

②過越の祭りにやって来た巡礼者たちが、どのような姿勢で献金を捧げるかを観察しておられた。

③多くの金持ちが大金を投げ入れていた。

④ひとりの貧しいやもめがレプタ銅貨2枚を投げ入れた。

*画像②

*レプタは、パレスチナで流通していた最小単位のユダヤの銅貨である。

*レプタ2枚は、ローマのデナリの64分の1である。

*1デナリは当時の日当。仮に1万円とすると、レプタ2枚は156円である。

2. イエスの教え

Mar 12:43 **すると、イエスは弟子たちを呼び寄せて、こう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れていたどの人よりもたくさん投げ入れました。」**

Mar 12:44 **みなは、あり余る中から投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、生活費の全部を投げ入れたからです。」**

(1) これは、弟子たちへの教えである。

①弟子たちは距離を置いていたので、彼らと呼ばせている。

②厳粛な教えである。

③人間による評価では、どれくらいの額を投げ入れたかで価値が決まる。

③イエスによる評価では、どれくらいの犠牲を払ったかで価値が決まる。

④このやもめは、生活費の全部を投げ入れた。

(2) やもめのための心配

①将来への備えはどうなったのか。

(例話) その日の夕食にありつけたか。

②これは、信仰に基づく行為である。

③神は必要を満たしてくださる。

*ユダヤ人の会堂では、やもめに対する援助が行われていた。

*初代教会は、その習慣を踏襲した(使6:1~4参照)。

結論:

1. 再臨と携挙の違い

(1) 再臨の条件は、ユダヤ人の民族的回心である。

(2) **ゼカ 12:10**

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く」

①ユダヤ人にとっては、ひとり子を失くす悲しみ以上の悲しみはない。

②ユダヤ人の回心は、大患難時代の最後に起こる。

(3) 大患難時代→ユダヤ人の民族的回心→メシアの再臨→千年王国

(4) 携挙には、前提条件がない。

①紀元70年のエルサレム崩壊以降、携挙はいつでも起こりうる状態となった。

②携挙とは、普遍的教会が天に上げられることである。

2. 反ユダヤ主義の理由

(1) 歴史上、反ユダヤ主義が途絶えたことはない。

①最近では、民族的な反ユダヤ主義から政治的反ユダヤ主義に移行している。

(2) 反ユダヤ主義の最大の目的は、霊的なものである。

①ユダヤ人がイエスを信じる前に、彼らを抹殺するというのがそれである。

②ユダヤ人がいなくなれば、メシアの再臨もなくなる。

③背後で指揮をしているのは、サタンである。

3. やもめの献金からの教訓

(1) ここには、パリサイ人たちとやもめの信仰の対比がある。

①イエスは神殿の中で初めて小さな光を見た。

②このやもめは、イエスを信じる者が見習うべき手本である。

(2) ここには、全的献身の姿がある。

①口伝律法では、慈善のための献金は2レプタ以上とされていたが、ここではその規定は適用されない。

②つまり、彼女は1レプタだけ捧げる道もあったのが、全部を捧げた。

③弟子たちの全的献身が試されようとしている。

④**マコ 14:27~31**

Mar 14:27 イエスは、弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、つまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊は散り散りになる』と書いてありますから。

Mar 14:28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」

Mar 14:29 すると、ペテロがイエスに言った。「たとい全部の者がつまずいても、私はつまずきません。」

Mar 14:30 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたは、きょう、今夜、鶏が二度鳴く前に、わたしを知らないとは三度言います。」

Mar 14:31 ペテロは力を込めて言い張った。「たとい、ごいっしょに死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」みなのももそう言った。

(3) ここには、イエスの全面的な自己犠牲の予表がある。